

令和4年 飯田市教育委員会8月定例会会議録

令和4年8月19日（金） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	宮下 利彦
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼教育企画係長	代田 暢志
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和4年8月定例会を始めます。よろしくをお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。8月定例会の会期を本日1日とさせていただきます、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、お認めいただきありがとうございます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録署名委員の指名、会議録署名委員を野澤稔弘教育委員さんをお願いをしたいと思います、よろしいでしょうか。

◇教育委員（野澤稔弘） はい。

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしくお願いいいたします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認、7月定例会の会議録をご確認ください。何かご意見があればお願いいいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしいですね。承認いただきました。ありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、教育長報告事項でございます。

別紙をご覧ください。「8月教育委員会定例会教育長報告事項」と書いてあるものがございます。

7月19日に市長と語るまちづくり懇談会が上村でございました。

上村小学校は、ユネスコスクールのキャンディ校っていう、つまり候補という形に承認されたということでございます。ただ、なかなかスクールバスの運転手であったりとか、スクールサポートスタッフの担い手がいらっしやらないというようなことで、その困り感

を共有させていただきながら、進めてまいりたいと考えております。

2つ目のオンラインでやりましたけれども、県教委との懇談が7月27日にございました。

中身は、次の長野県教育振興基本計画の基本理念と計画構成について意見をいただきたいということで、各市町村の教育長が参加させていただいて意見を申し上げました。次の県の教育振興基本計画には、この「well-being」という言葉とか、「探究力」という言葉を入れたいと、そういうことを考えていらっしゃるということで、それについてのご意見を申し上げたという状況であります。

「well-being」という言葉は、最近よく使われ出している言葉でありますので、この括弧の中の定義も様々な定義があるので、これが間違いない定義かどうかは定かではないですが、県としてはこういう定義をするということです。

それからもう1つの県の教員採用・配置に関する現状と課題について、5月1日時点で県全体で教員不足が小学校7人、中学校1人あるということで、今年、採用選考1週間前倒しにしまして、志願者が52名増えたという報告がございましたが、いずこも足りない。飯田市の場合は、それこそ家庭訪問までして三顧の礼を取ったりいろいろして人を探して何とか埋まったようですが、今現在、産育休の補充が出れば、そこに入っただけの講師の候補が誰もいないということでございました。ですので、先生方がお休みに入ると代替の者が今、見つかっていないという状況であります。

以下、またお読みいただければなというふうに思います。

3番の少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会。

これについては後でも報告がありますけれども、いろんなご意見をいただきました。いろんなご意見をいただくことが大事ななというふうに思っておりますけれども、「飯田市からある程度方向を示す必要があるのではないか」というご意見がある一方、「遠回りに見えるけれども、この特色のある学校づくりということについて、学校運営協議会で協議すること自体が大切な1年ではないか」ということであります。

今回のアンケートに向けて具体的なご指摘をいただきました。

4つ目は三遠南信の中学生交流会でございます。

これも残念ながらウェブ会議という形になりました。市内の中学生の二年生が主体的に「やりたい」って手を挙げていただいたり推薦していただいて、2名ずつ参加をいただいています。そういう中でオンラインではありましたが、浜松や豊橋市の中学生に積極的に質問する中学生が何人もいたり、グループ協議で先生が司会するんじゃなくて、生徒が司会進行みたいなことをやるグループも飯田市の中学生でいたり、非常に期待が持て

るなあというふうに喜ばしく見ておりました。

やはり一番感じたことは、飯田市の紹介をするときに、これは竜東だったと思うんですけど、竜東の中学生が自分の体験したことはやっぱり自信を持って語っているんですね。ですので、やはり自分が地域を知る中で自分が体験するっていうことは、とても大事なことだなということを、私は飯田市の紹介をしている中学生の姿から強く感じました。

5番目は夏体験活動「川魚と遊ぼう」というので、これは不登校、不適應のお子さんを持つご家族の皆さん方に、夏休みに親子で参加していただくということでやった企画でございます。

保護者の感想をそこに書きましたけれども、「魚のつかみ取りをしたり、川遊びをしたり、自然に触れて楽しく過ごすことができ、お母さん方もリフレッシュができた」というようなことで、とても楽しい面白い機会になりました。コロナで参加数は去年より少ないんですけども、こういう機会が大事だなあということを改めて感じた次第であります。

以上、私からの報告をさせていただきましたが、何かご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

日程第6 議案審議（1件）

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして、日程第6。本日は1つの議案についてのご審議をいただきます。

議案第51号 令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第51号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

櫻井学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） それでは議案第51号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」をお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にて認定をいただきますようご提案申し上げます。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明がありました議案第 51 号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（「ございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。お認めいただきましたので、承認ということでよろしく願いをいたします。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第 7、「協議事項」。

（1）少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について

○教育長（熊谷邦千加） （1）「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」。

代田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） よろしく願いします。

協議事項の（1）少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組につきまして、令和 4 年 7 月 28 日に開催いたしました、令和 4 年度の第 1 回の研究会での協議内容につきましてご報告させていただきます。

定例会資料の 7 ページに資料 No. 1 - 2 として研究会の会議次第、それから報告・説明事項、協議事項、それから 17 ページ以降につきましては、添付資料といった当日の研究会の会議資料を付けさせていただいておりますが、教育委員会の定例会では、特に次第の 6、これの協議事項についてご報告をさせていただきたいと思います。

定例会資料の 5 ページ、資料の No. 1 - 1 をご覧いただきたいと思います。

研究会での協議内容について、1、令和 4 年度の検討の進め方について、学校運営協議会における意見交換と中段以降に教育委員会事務局内の研究チーム、それから次のページ、6 ページに 2 として、アンケート調査（素案）についてということで、協議の項目別に事務局側の説明、それから説明についての研究会の委員の方のご意見、それから今後の進め方についてまとめさせていただきました。

5 ページの頭に戻っていただいて、1 の令和 4 年度検討の進め方について。

学校運営協議会における意見交換の研究会の委員の方々のご意見といたしまして、そち

らにありますように「意見交換は、現在の保護者や将来の保護者となる方が参加して、直接ご意見をいただくことが望ましいのではないかと」いったご意見。それから「教育委員会が将来ビジョンを示すことで、学校運営協議会や地域内などでの話がより進みやすくなるのではないかと」、「今後もこのような意見交換を重ねていく中で、それぞれの学校の特色が表れてくれば良いのではないかと」いったご意見。それから「遠回りと思われる学校運営協議会での進みではあるのが、今年度の取組は保護者が学校における課題を認識し、次のステップへと進み、今後の諮問・答申へとつながる取組であるから、大切に進めていっていただきたい」というようなご意見をいただきました。

研究会での協議を受けて、今後の進め方といたしまして、小中学校の保護者や保育園、幼稚園の保護者といった現在、また将来学校に関係する方々からの意見を反映できるように、意見調査を予定しております。これはアンケート調査であります。

それから教育委員会として、少子化、小中学校といった学校施設の老朽化のための単なる数合わせの配置・枠組みを将来ビジョンとしてお示しするのではなく、研究会の副座長の後藤先生の言葉をお借りすれば、子どもを真ん中に置いて、教育環境の充実、より良い学びの環境を提供できるかについて、地域に根差した学校としての特色・魅力づくりをテーマに意見交換を進めてまいります。

次に、学校の配置・枠組み、これからの学校のあり方について、専門研究を進めていく教育委員会の事務局内の研究チームについて、研究委員の意見といたしまして、「事務局内研究チームで配置・枠組みに向けた研究を重ね、方向性を示す時期に来ているのではないかと」というご意見をいただきました。これについては、学校の配置・枠組み、これからの学校のあり方について、今年1年かけて事務局内の専門研究チームで知見を深め、学校運営協議会での意見交換、また意向調査結果とともに、今年度以降、設置を予定している審議会への諮問が諮れるよう、専門研究を重ねてまいります。

次のページ、2のアンケート調査の素案につきまして。

先ほど今後の進め方でもありましたとおり、保護者への意向調査を行うためのアンケート調査を予定しているところであります。そのたたき台としまして、定例会資料の15・16ページに研究会でアンケート調査を示させていただいております。このアンケート調査の持ち方や設問についてご意見をいただきました。

研究会の委員のご意見といたしまして、「保護者向けアンケート実施前に、保護者や児童生徒に対して少子化や施設の老朽化の現状について、情報の共有をさらに図りたい」、「令和4年の3月に小中学校の全保護者宛に配布いたしました、少子化や学校施設の老朽

化の様子を記したあり方検討の概要版、これを見た感想についても設問に取り入れみてもいいのではないかと、また、「設問の7からそれ以降につきましては、設問内容の重みが違って来るので、保護者がアンケート内容を十分に理解し、その上での設問ではないと正確な回答が得られないのではないかと」というようなご意見をいただいております。

これらのご指摘を受けまして、アンケート調査の今後の進め方といたしまして、小中学校の全保護者宛に配布いたしました、あり方検討の概要版、これをもとにいたしまして、少子化の様子や学校施設の老朽化、これらに加えて、教員配置の現状、またあり方検討の経過、今後の進め方、また先行事例や意向調査への回答のご依頼、そういったものについて、改めて教育委員会の発行の情報誌である「H a g u」を活用して保護者や児童生徒に課題や現在の取組、また今後の進め方についての共通理解を図った上でアンケート調査を実施してまいります。

アンケートの内容につきましては、取組研究会の意見を踏まえた上で修正を加えさせていただき、PTA連合会の役員会等に案として諮らせていただき、回答者側からの意見をいただいた上で、研究会で協議をいただきたいと考えておるところであります。

また、アンケートは1回で完結するものではなく、必要に応じて実施していくものとし、第1回のアンケートはスケジュールどおりに11月下旬に実施することとしたいと考えています。

最後に、第1回研究会での協議ご意見をいただき、3のその他として、令和4年度の進め方について、追加項目をあげさせていただいております。

先ほどのアンケート調査の進め方でも触れさせていただきましたが、あり方検討についての目的や進め方、今年度の取組について、保護者や学校関係者に共通認識いただくために情報誌、先ほども申しましたが「H a g u」を発刊いたします。また、学校現場においても学校間や教師間における取組に温度差が生じることのないよう、校長、教頭先生を対象とした中学校区ごとのオンラインミーティングを開催します。

以上、研究会でのご指摘や協議を受けて2点を新たに加えて取り組んでまいりたいと思っております。

以上、よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました件につきましてご協議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） この「H a g u」というのを発刊するところまではいいいんですけども、

読んでもらうこと以外に何かされるのでしょうか。

今のお子さんとか保護者の方は、本を多分見ないと思うんですね。「H a g u」というものは発刊するだけでは多分情報は伝わらないと思うんですけど、それ以上に何か工夫はされる予定はありますか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、代田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） 3月にあり方検討の概要版ということで配らせていただいて、保護者向けに配布させていただきました。それは紙ベースでありますので、なかなか見ることがないということで、保護者の方々とかお子さんまでなかなか伝わらない部分があったんですけども、「H a g u」ということでちょっと目線を変えて編集も教育委員会で編集するものではなくて、ほかの企業にお願いして情報誌ということになるべく目に付きやすくあまり文字で訴えるのではなく、感覚的に読めるようなものをつくりたいというふうに考えておるところでありまして、それを7,000部ということで全家庭に配って、なるべく目を付けやすいようにということを、それを念頭に置きながら文字数も大きくならないよう考えているところでありまして。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤委員さんがおっしゃりたいことは、その形はいろいろあるんですけど、そういう読み物だけでは十分ではないんじゃないかというご意見だと思います。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） それをアンケート調査の前に一緒のタイミングでお配りしたいというふうに考えておるんですけど、それを見た上でアンケートに答えていただければということを、また工夫をしていきたいと思うんですけど。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤委員。

◇教育長職務代理人（北澤正光） ちょうど同じ部分の話になります。ここの部分をとっても丁寧に進めて来ていただいてありがたいというのが一番の思いですが、ここのところが今年一番の目玉の部分というか、要するに肝になる部分だと思っています。

この「H a g u」がいつ出るかということと併せて、アンケートが11月下旬になっているので、この「H a g u」がいつ出て、それでアンケートが11月下旬で、その前に多分一番下のところに加わった部分のこと。学校現場においても温度差が生じないように校長、教頭先生を対象としたオンラインミーティングを開催するとなっているのですが、この3つの関係がどんな流れで、どんなタイムスケジュールで進めていく予定でいるか先にお聞きして、その後に意見を申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） 代田課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） まずはオンラインミーティングの関係なんで

すけど、9月26日に校長会がありますので、そこで校長先生にオンラインミーティングの開催についてお願いしたいと考えておるところであります。

それを受けまして、先ほどのアンケート調査の関係につきましては、これも9月にPTAの保護者の役員会がありまして、そちらのほうに案ということで示させていただいて、回答者側からのご意見をいただきながらいい案をつくりあげていきたいと考えています。

それと同時進行に「H a g u」のほうを作らせていただいて、11月の末にはアンケート調査で、その前に「H a g u」の発行というふうなそんなスケジュールで予定しておるところであります。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今、野澤委員さんがおっしゃっていたことの若干の解決策とも思える部分なのですが、私も前々から申し上げていることは、学校ごとに抱えている状況、この少子化のことについても、それから今後の将来のことで、例えば学校統合のようなことに向かっていくことが必要なのかとか、または今のままの学校規模で、まだ10年先もほとんど変わらないという学校もあって、さしあたり、学校の統合のようなことは今のところは必要ないと。むしろ、どんな学校づくりをしていったらいいかということのほうを重点的に考えていかなければいけない学校等、ここからはかなり学校ごとに状況が変わってくるようになると思うのです。といったとき、保護者の皆様からすると前回は概要版を手に入れました。今度も「H a g u」で、紙ベースのものがくる。その中身は工夫されているにしても、それを見て理解してくれるかどうかという部分のことがポイントになってくるときに、一番は校長先生、教頭先生のご理解とご協力をいただいて、コロナ禍でない状況ならかなり安易にできたことだと思うのですが、前々から言っていることでもありますが、学校の保護者懇談会とか、PTAの参観日などの機会に、保護者にきちっと校長先生なりの口からこの「H a g u」を使ってもいいし、概要版を使ってでもいいけれど、自分の学校の置かれている状況がこうだということを、具体的に保護者に説明していただくような機会が私はどうしても必要だと思っているのです。

それが今は、学運協で置き換わっているのだと思うのですけれど、学運協のメンバーというのは本当に限られたメンバーだけになってしまうので、少しでも裾野を広げていくには、保護者の皆さんに向かって直接お話する、聞いていただくという場面が私はどうしても必要なのではないかと考えているのです。ただ、今のところはコロナがあって保護者に集まっていただく機会がなかなかつくれないというもどかしさがあるので、こここのころに工夫が必要なかもしれないけれど、少なくとも校長先生、教頭先生にはご理解をいただいて、折りあるごとに保護者に発信していただくことはどうしても欠かせない部分だ

と思います。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

いずれにしても、ただ配っただけではちょっと難しいだろうと。今のような校長先生から直接とか、そういったように直接保護者に訴えかけるような手立ても必要じゃないかというご意見でよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 今、アイデアをいただきましたが、ほかはございますか。

上河内委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） 保護者会についてですが、参加率の高い学校と参加率の低い学校もあると思いますので、例えば進んだ学校だとオンデマンドで校長先生のお話を聞けるようにしておいて、そこへ行けばクリックすれば先生のお話聞けるっていうようなことができる学校が増えていくのではないかと思います。私もそのようにして、パソコン上で校長先生のお話を聞いたことがあるので、そういった方法もあるかと思いますし、アンケート調査は、パソコンやタブレットで行うということであれば、必ず目を通すわけですから、そのアンケート調査の画面上にもその簡単なものを入れたりとか、とれるようにしておくという工夫があると良いのかなというふうに思います。

もう1つちょっとそのアンケート調査についてになんですがよろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、どうぞ。

◇教育委員（上河内陽子） 素案を見たんですけども、Q1として「お住まいの地区はどこですか」というのは、これは橋北や橋南、丸山、羽場というふうにあります。これは学区で分けるというふうじゃなくていいのかなというふうに思いましたのと、あと次のページのQ9なんですけど、自分もこれはちょっと丸して試しにやってみたんですけど、これはちょっと主観が入ってきてしまうのかもしれませんが、例えば①なんですけど、「向上心や協調性、競争心等が育ち、学習の質が向上する」というようにあると、ちょっと難しいかなと。それを選ぶのが難しいのかなと思うのは、例えば向上心とか協調性はいいけど、競争心はそんなに要るかなと思っただけの方がいるとしたときに、難しい。学習の質は向上してほしいけど、競争心はどうだろうと思わないだろうかとか、ちょっと考えてしまいましたが、この辺のアンケートは話合いの中でつくられているとのことですし、今回、1回限りではないということですので、今後そういった課題も話合いの中で課題が見つかった時点でまた直していただきながらやっていっていただけるのかな、それを期待したいのかなと思いました。

○教育長（熊谷邦千加） これは前回、意見をいただいたものを生かして直したのではなくて、前回出したものをそのままですね。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） そうですね。

○教育長（熊谷邦千加） また、いただいたご意見を生かしていきたいと思います。

では、三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） アンケート調査の内容についての素案ということですので、これからまたいろいろ変わっていかれるのかなと思います。アンケートを見ていて思ったところは、例えば、前に戻った5ページのところのこういった会の進め方というところの意見交換の内容、進め方というところを、1の（進め方）を見ていくと黒ポツの2番目のところ、「教育委員会として、単に少子化や施設の老朽化のための数合わせの配置・枠組みを示すのではなく、子どもを真ん中に置いて、教育環境の充実、より良い学びの環境を提供できるかについて、地域に根付いた学校としての特色・魅力づくりをテーマに意見交換を進める」ということでそういったこと、配置・枠組み云々ではなくて、その地域の中の学校としてのそういった意見交換を行っていくという、こういった内容であって、改めて15ページのそのアンケートの素案を見させていただくと、11問質問がある中の5問はもう適正配置云々という質問事項になっているっていったところが1点。15ページのところの一番そのテーマに据えているただ配置とかそういったものなどではないよという流れであるのですが、その特色や魅力といったところが問の5と6というような形のこの2つのところに収まっているといったところ。あと特色や魅力ということで、特色と魅力と一緒にしているので、特色はあるけどそれは魅力と感じているのか、魅力のあるものはその地区の特色と言えるのかっていうふうにと考えると、この部分をテーマの重点に据えていくのであればこの辺を丁寧に聞いて、この部分の意見交換をするといったところ。これが本当にもう適正配置云々というところも特にやっていくんだっていうようなことであればですけども、単にそうではないんだというところで魅力やそういったところということであれば、もっとこの辺りを聞いて、意見云々に生かしていくっていったことのほうがいいのかと感じました。

なので、特色はどのようなもので、魅力はどのようなものなのかっていうのも少しアンケートをする方々には分かるように示さないと、どういったことが特色とってどういったことを魅力というものなのかというのを一緒に聞いてしまうと答えづらいのかなと、そんなところを感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） これ、タブレットとかでアンケートとられるんですか。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） そうです。

◇教育委員（野澤稔弘） ぜひ、多言語化してください。多分、親御さんで海外の方もいらっしゃると思うんで、その方々が理解しやすいように、多言語化しておいてもらって、言葉は選べるようになっていけばいいかなと思います。

○教育長（熊谷邦千加） はい、確かにそうですね。お子さんは日本語できてもね、お母さん、お父さんが外国人の方いらっしゃる。

はい、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

アンケートについては、まだまだ修正の余地がたくさんあるかと思しますので、いただいた意見を踏まえてまた修正していくことになるかと思います。

よろしいですかね。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして、日程第8、陳情審議について、陳情審議は今回ございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、日程第9、その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」でございます。

教育委員さんのほうで報告事項がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

では三浦委員さんから。

◇教育委員（三浦弥生） 総合教育会議は大変お世話になりました。ありがとうございました。

総合教育会議の冒頭に熊谷教育長のほうから、大村はま先生のことについての少し触れられたかなというふうに思います。私もこの総合教育会議に出席するにあたって、新井紀子さんのAIバーサス云々という本を買いに行くときに何冊か新書なんかも手に取ったんですけども、その中の1つに「ことばの教育を問いなおす」という、そういった本がありまして、これが鳥飼玖美子さん、英語教育をされている人と荻谷夏子さんという大村はま記念国語教育の会の事務長をされている方だと思うんですけども、その方とあと荻谷剛彦さんという方の対話と言いますか「対書」という言い方でいいのでしょうか、文面で対談していくようなそんな感じの本がありまして、手に取った中にその本もありました。

改めて教育長のほうから大村はま先生のお話が出たので、ちょっとこの本に、もう一回振り返って読んでみましたけれども、そこにあったのは今度は国語力といったところで、やはり母語と言いますか、日本のこの言葉というものを聞いて、話して、書いて、またその言葉で思考をしている、考えていく。だからそこを丁寧に扱っていかなければいけないんだということと、その本当にどこへでも通用するそういった言葉を育てていかなければならないっていう、そういった専門教育においても大村はま先生が子どもたちの教育に傾けてきた情熱っていったものが書かれていて、なるほどと思ったわけです。

その中で書いてあったのが、先生方が子どもたちよりも誰よりもやはりいきいきとしてその教育、学びを先生方がしていく。考えて研究するっていう姿勢はすごく大事だっていうことが書かれていまして、総合教育会議、ついつい本当に完璧根拠に基づいたような、そんなような話ばかりしてしまったなってちょっと思っているんですけども、平日頃の先生方の授業に対する姿勢だとか、研究授業であるだとか、そういった子どもたちに向かう先生方の姿勢。先ほどクラブ活動云々というものも出てましたけれども、そういったところで先生方の時間を軽くするために移行させるわけではありませんが、子どもたちのより良い授業に向かう時間をきちんと確保していただくっていったところ、そういったところが本当に大切かなというふうに思いました。

そして、また前回も斎藤 孝さんの『読書力』っていうのがありますとお話ししましたが、「新しい学力」っていうそんな新書もありまして、そんなのも目を通すと、本当に何人かの先人たちの名前の中で吉田松陰の、「いろいろ教えるに当たって、いろいろ必ず問いをしていくっていう中にやはりその情熱、先生が分かる、楽しい、学問はつらいけれども、分かると楽しいっていうところを教員も子どもたちと一緒に学んでいく」とか、「研究を続けていく、そういったものが教員の姿だ」というようなところも書いてあったりすると、まさしくそういった先生方っていうのもやはり教育委員の言葉として本当にサボ

ートできるようなそんな意見をしっかりと聞いたかったなど改めて本を見ていて思ったところでは。

先生方が子どもたちに教育するに当たって、研究、学んでいかれる、そんな環境になるといいなど。先ほど教員不足という話も聞いていると、先生たちを確保することすら難しいのにというところがありますけれども、理想的にはそういったような先生方への環境といったものって本当に大切だなということを感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。続いていかがでしょうか。

では、上河内委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） 夏休みがありまして、子どもたちと過ごす時間があつた中で、感じたことです。

長野市内から甥っ子姪っ子が来まして、飯田の人形劇は今回は地域の人しか参加できないということだったわけなんです、その甥っ子姪っ子はいつも人形劇をすごく楽しみにしている子どもたちだったものですから、今回は中止にもなってしまつて、人形劇行けなくて残念だったねということで、実家でずっと家の中で過ごしていたわけです。

暑くて公園にも行けなくて、本当にいろんな体験をさせてやりたいなんて思いながらも、全く外にも出れないくらいだるような暑さになってしまつていたので、中学生の娘も部活もなくて、みんなで家にいたときに風船で遊ぶとかなんか一連の遊びをした後に、さあまだまだ時間があるぞつてなつたときに、絵本を読んでみようということになって、絵本を読んでみました。そうすると、4歳の子どもは、最初ガチャガチャやっていたけどお話に引き込まれて、ぐいぐいと迫つて絵本に近づいてきますし、小学校三年生の男の子も聞くようになるし、さらに中学生の娘まで自分が子どもの頃読んでもらった絵本に耳を傾けて、さらにその私の母であるおばあちゃんまで一緒になって聞いて、みんなでその絵本の世界に入り込んで、「ああ、こんなことあつたね」、「あんなこと、ああ、こんなお話だったね」なんていう会話が生まれました。それですごく絵本の力つていうのを感じました。

絵本は、おばあちゃんの中にも子どもの心があるし、私たち大人の中にも子どもの心があるので、もうみんなで楽しめるのが今、絵本なのかな、絵本つてすごいなというふうに改めて感じて、何にもない中でも絵本はあるなということ、その力を改めて家族の中で感じた夏休みとなりました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。ちなみに何の絵本だったですか。

◇教育委員（上河内陽子） 絵本はいくつも読んだんですが、エルサ・ベスコフの「もりのこびとたち」というのとか、あと「島ひきおに」っていうの。館長分かりますか。「島ひきおに」読みました。あと、そうですね、いくつかほかにも読みましたけど、この辺が印象的なものでした。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

では、北澤委員さん、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今回、夏休み中なので学校関係のことではないのですが、今、上河内委員がおっしゃっていたことに続くような話ですが、ちょうど孫の子守を頼まれて、ずっと家ばかりにいてもどうにもならないので、鼎図書館へ連れて行きました。それで私は自分の本を見るのが中心で、孫2人は本人任せにしていました。そうしたら片方の孫が、学校の自由研究のことが苦になっていたらしくて、図書館の職員の方に相談を持ち掛けたようです。20分ぐらいたってもちっとも戻ってこない。様子を見てみると、図書館の隅のほうに行くと本人は自分の考えていることを伝えて、ずっと話相手になってくださって、なおかつ「こんな本があるよ」と本を紹介してくれ、鼎図書館にある本だけでは足りなかったようで、ほかの図書館から類する本を取り寄せていただいた。私は孫が職員の方と何を話してきたか、何をお願いしてきたかもさっぱり知らない。そしたら次の日、鼎図書館からお電話をいただいて、「昨日話したご要望の本を3冊揃えましたので、取りに来てください」との電話をいただきました。その3冊の本の中に、孫とやり取りした中身に類する部分へ丁寧に付箋を入れてくださって貸してくださいました。先日、お返しに行ったのですが、職員の方が覚えていて、「いかがでしたか」とおっしゃるので、「とっても役に立ったようで、全く知らずにいたところですが、丁寧に対応してくださってありがとうございました」と申し上げてきました。

今の話の流れのとおりで、本当に子どもに真正面から向き合っていて、付箋まで入れて丁寧な対応をしていただきました。付箋まで入れてあると野澤委員さんに「自分で読んで探させろ」と言われそうな気がします。本人の話したことをちゃんと受け止めてくださって、しかも、1冊だけある本を貸していただければそれで済むところを、それに類するものをほかの図書館から取り寄せしてくださって、情報提供してくださっている。そんな場面に出くわして、非常にありがたい対応をしてくださっていると思いました。お礼も兼ねて報告です。

館長さん、お礼申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） 予定にはないですけど、館長さん何かありますか。

◎中央図書館長（瀧本明子） ありがとうございます。

以前に比べると、調べに来る子どもたちは大分減ってきているのが実情ではあるんですけども、図書館ではそんな中でもその子どもさんが自分の求めるものがちゃんと手に入って帰れるようにということで、付箋も、せっかく取り寄せたのに見つからないといけな
いと思って付けたと思うんですけども、そんなふうに対応をさせていただいております。
使っていただいてありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

そのほかありますか。

では、野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 義理の姉が今年の春に亡くなって61か62かな、で亡くなって、京都に住んでたんで、今年、お盆ちょっと京都に行ってたんですけど、3年ぶりですかね、五山の大文字、右、左、妙法、鳥居、船形、3年ぶりだったんですけど、その人が減っているらしいですね、やる人が。なので、あれも何百年と続いてきているだろうと思うんですけど、「だんだんだんだん、大変になっている」って言って地元では。「今年は何とかなげたけど」みたいな。そういうのが途絶えないようにやってほしいなと思いながら飯田へ帰ってくれば、多分、次の御柱を引くのは誰が引くんだみたいなところがどこかの村には話としてはあるのかなと思って、そういうのをちょっとふと半分泣きながら考えてました。

ちょっと、センチかもしれないけど、ああいう風習っていうのが1つのなんかつながり
というのか、そういうものが伝わってくるものなので、そういうものがなくならないよう
にしていきたいなというふうに感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

加えていかがでしょうか。

はい、北澤委員さん、どうぞ。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 時間が許すならの話ですけど、さっき三浦委員から大村は
ま先生の話があり、前回の総合教育会議で教育長も話されていました。私は幸いなことに、
その大村はま先生がご存命のときに直接お話を伺い、授業の様子を見る機会に恵まれました。
そんな中で、さっき教員になり手が減っているというような話もあったのですが、ち
ょうど自分が20代の終わり頃に、大村はま先生が下伊那教育会館にみえて、本当に狭い建
物なので、もう満席状態で国語の先生方中心ですけど、希望のある先生はどなたでもと
いうことで、ぎゅうぎゅう詰め状態で大村はま先生のお話を直接聞けたのです。それが

多分 1983 年、昭和 58 年ぐらいだったかと思うのですが、その年に「大村はま国語教室の会」というのが立ち上がって、第 1 回がその年の夏休みに東京の茗荷谷のかつての東京教育大学の附属中学校で行われたのです。

その前に大村はま先生のお話を下伊那で聞いていたので、その頃、東中にいたのですが、教頭先生に「夏休みに第 1 回国語教室の会が開かれるので、その研究会に行きたいのですが」とお伝えしたら、教頭先生が即、「行ってこい行ってこい」と。それで「これは出張扱いにしてやる。しっかり勉強してこい」というくらいに背中を押してもらった。本当に自分なんか半端な国語教師だったのですけれど、本人が学びたいということについて、教頭先生が「すぐに行ってこい」というようなふうで背中を押して全国規模の学びの場に出させていただいた。

当然、東京へ行ってその会場に行けば全国から大村はま先生の授業風景を直接学びたいという思いで来ているわけです。そうすると大村はま先生から学ぶだけではなくて、全国から志をもって来ている人たちの熱気というか、少しでもいい授業をしたい、子どもたちの力になる授業を創りたいという姿の中からもすごく学ぶ。

そのとき、授業の風景も見せてくれたのですが、大村はま先生は、小さな丸椅子を持って、子どもたちの横に座って一人一人と話しているだけ。単元学習とその頃は呼んでいたのですけれど、今の探究学習と同じようなものです。一人一人が自分のテーマに向かって、一生懸命調べたり、書いたりしているところを大村はま先生が本当に小さい丸椅子を持って行って、その子の横に座って、ただ相談しているだけ。1 時間中そういう授業で、先生が黒板で何かを書いてとか、一斉にやっているとかという授業ではないのです。1 時間ずっと子どもたちは自分のテーマに向かって追及している。先生は、一人一人のお子さんのところで椅子を持って行って話を聞いて、手短かにアドバイスをしてというような授業なのですけれど、先生は一人一人をしっかり把握しているし、子どもたちは全員に学びが成立し、素晴らしい集中力で学んでいる。いつも一斉授業みたいな感じでやっていた自分の授業を根本から振り返るきっかけをいただきました。

今、先生方は、自分で学びたいというところに、例えば夏休みなどを使って行けるような状況がどれくらいあるのかなと思うわけです。子どもたちに探究学習と言いながら、教師が自分のテーマについて探究する、そういう場面や時間がどれくらいとれているのだろうか。そんなことがかなえられると、この教員という仕事はかなり面白い仕事だというふうに思うのですけれど。半分は自分の学びであるということも含めて。

働き方改革というのは、単に働く時間が短くなるというような話ではなくて、時間の質

のことではないかと思っています。

報告事項のところなのに、世間話みたいなことを言ってしまいました。大村はま先生つながりていくつか思い浮かぶことを申しました。以上です。

◇教育委員（三浦弥生） 少しだけ。

○教育長（熊谷邦千加） どうぞ。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

大村はま先生の授業の話、実際にお聞きできてうれしかったです。本を読んでてどんな授業を受けたんだろうとかちょっと思うところもありました。

大村はま全集 15 巻ありますっていうようなのがありましたけど、15 巻読んでられないなどと思ひまして。

◇教育長職務代理者（北澤正光） お貸ししますよ。

◇教育委員（三浦弥生） そう、ありますか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 全集を持っていますので。

◇教育委員（三浦弥生） でも、先ほど言った「ことばの教育を問いなおす」という本の中身は、鳥飼さんという英語教育の先生が、大村はま先生のやり方を理論化して英語教育に生かせないかというようなところからスタートして、そんなような内容なんですけれども、でも実際やってみると、実践ということは理論になる部分とならない部分があるって、そんなような内容が結構書かれて会話されているっていう感じなんです。

私を持っている R S T で学力と一緒に相関関係、これも私、飯田市の教育委員会の素晴らしい取組だなというふうに本当に思ひます。実際に R S T っていうそういった読解力っていうものが学力と関係がある。読解力を磨くということで、ドリルを行って磨いていこうっていうところはそれで本当に必要だと思ひます。その一方で、そういった根拠に基づいているものとその理論の中には乗り切らない、その大村はま先生ですが、実践に実践を重ねてっていうのがすごく大切だと思ひます。そういったものこそ先生方に探究学習、子どもと同じ視点に立って情熱を持って伝えてもらいたいです。やはりそういったバランスの良い教育の取組というのが、子どもたちの学習活動の中には大事なんだろうと思ひます。

もう 1 つだけ、新井紀子さんの 2 冊目の続編の本の中にあつたのが、アクティブラーニングについて。アクティブラーニングについて、新井紀子さんが言っているのが、1980 年 90 年代に、日本の学力が高かつたから諸外国から日本に視察に来たと、そのときに、「班活動というものが日本の学力の高い 1 つの要因ではなかつたのか」ということで、それが今、海外でアクティブラーニングという形で日本にとっては逆輸入の形というようなところも

あったと。だとすればこれまで日本がやってきた学習というものが駄目なのではなくて、学力を大いに付けるにとっても基本で良かったっていうふうなことに立って新しいことにも取り組んでいく。やはり新しいものは目先が新しいものでついそこだけに視点を置きがちですけれども、やはりこれまで培ってきているっていう、そういったこれまでの先生方にも知恵をお借りしながら、きちんと班活動のような学習活動をして若い先生方も研究授業等々で力を付けていくっていうことは大切なのかなと。

また、その研究授業という日本のその取組にもとても評価される部分があるということで、新井さんの本には書いてあったので、そういった研究されている先生方の本を読めば、これまでのことと新しく分かってきたことをバランスよくっていったところが子どもたちにはいいのかなと、そんなように感じました。

先生、ありがとうございました。本当にお話聞けてうれしかったです。

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしいですか。

（発言する者なし）

（2）参与報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続いて参りたいと思います。日程第9の（2）「参与報告事項」、松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） 事務的なお話で恐縮ですが、コロナの対応です。

先ほど、学校における学級閉鎖等の対応について、専門幹ほうから話がありましたけれども、教育委員会では、公民館等の公の施設を多く所有し市民の皆さんに利用いただいております。この施設対応については、8月8日に県の医療非常事態宣言が出されて、南信州地域も今、最高レベルのレベル6という状態で推移していますけれども、当初レベル6になった場合には原則公共施設については休館をするということで設定をしてございましたけれども、オミクロン株の特性が重症化しにくいということと、あとはそういう特性を踏まえたときに社会活動や経済活動の維持、継続というところにある程度ウエイトをおいて、ウィズコロナという基本的な考え方の中で対応していくというステージに入ってきているだろうという判断から、8日に行った飯田市の新型コロナウイルス感染症の対策本部会議の中で協議をして、レベル6になったけれども、公共施設についての休館はしないと。しかしながら感染レベルが高い状況が続いているのは確かであるので、それぞれの施設について、屋内施設については、定員の半分以下の利用にさせていただくということと、あと飲食を伴う会食等は施設の中ではご遠慮いただくということ。当然ながら基本的な感染対策

をしっかりと講じた上で、それぞれの利用者の皆さんも対策に協力していただくという、そういうことで運用をしております。また、社会体育施設等については、これは屋内・屋外問わず、ここはやはり基本的な感染対策と熱中症対策を継続してやっていただきながら、利用に供しているということです。

しかしながら、学校開放の社会体育施設である体育館については、今は学校で感染拡大のリスクが高まっているということがありますので、学級閉鎖や学年閉鎖が出てきた状態の中では、その施設を社会体育でご利用いただくということはなかなかちょっと難しいところがありますので、そういったところについては学校長との協議の中で個別に利用をご遠慮いただく期間を設定する可能性もあるということで、運用しています。

資料がなく口頭でのご説明で恐縮でありますけれども、そのような対応をしています。

○教育長（熊谷邦千加） はい、質問ご意見については後でまとめてお伺いしたいと思います。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（3）番、「学校教育課関係報告事項」。

櫻井課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 最初に私のほうから、資料はございませんが小学校の運動会、中学校文化祭の参列についてでございます。

コロナ禍になる前は、運動会・文化祭に教育委員の皆様にもご参列いただいていたところでございますけれども、今年度も昨年、一昨年と同様、参列は控えさせていただくということでご確認をいただきたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、続きまして学校教育専門幹等による学校訪問のまとめについて、専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） それではお願いいたします。

資料の39ページ、資料No.2になります。

5月の後半から7月の前半にかけて、第2回の学校訪問を私専門幹と三尾統括、それから事務局の係長級職員1名が学校訪問をしてまいりました。そのときの様子をまとめてあります。

一般的には、どの学校も課題に対して前向きに取り組んでいて、地域やいろいろな物的資源、それから人的資源を生かしながら学校運営を行っているという状況かなと思います。

学力、体力についてですが、学力、それから授業改善の必要性っていうのは校長先生非

常に強く感じられていて、どの学校も何とか取り組んでいきたいというふうなところを校長先生は強く願って動いてくださっている。ただ、まだまだ授業改善の部分については、職員全ての者が授業改善が進んでいるかというところ、その部分の課題はまだあるかなと思いますが、そのところを一生懸命取り組んでいるという様子がうかがえました。

体力面については、多くの学校で少し下回るような項目がありました。そういったところの対応も、それぞれの学校で取り組んでいるという状況でした。

いじめ、不登校、特別支援、生徒指導等の関係ですが、特に時間割の中に情報共有の時間をつくって対応をしているという学校が数校出てきています。定期的に不登校や特別な支援が必要な生徒の情報を関係職員、校長、教頭等関わりながら情報交換をして、対応しているという、そういった学校が少しずつ広がってきているという状況がありました。

4番目の小中連携・一貫教育の関係ですが、もう飯田市では非常にしっかり根付いていて、多くの学校で地域の方々に支えられながら地域の方々がいろいろ入っていただいて学校運営を手伝っていただいているという状況があります。

職員の人的な配置のことですが、課題のある職員を抱えている学校もありますが、若手やベテランがうまく融合しながらそれぞれの人たちを生かしてやっているかなという状況です。初任者も一生懸命取り組んでいる状況かなと。これから授業技術とかいろいろ研修しなければいけない部分はありますが、どの初任者も一生懸命取り組んでいるかなという状況でした。

諸帳簿については、一通り点検を行ってきました。

特に時間外勤務については、まだ遅くなってしまう学校もあります。比較的早い学校もありましたが、いろいろ学校の状況によってまだまだ時間外勤務、以前よりは少なくなっていますが、もう少し少なくていいのかなと思います。

最後に書かせていただきましたが、校務支援システムを導入されますともう少し効率化されていく部分もあるのかなと思います。飯田市は再来年度導入ということで準備を進めております。

以上です。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、(4)「生涯学習・スポーツ課関係の報告事項」。

伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 今日は特にございません。

(5) 文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、(5)「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下課長。

◎文化財保護活用課長兼考古学博物館長（宮下利彦） 文化財保護活用課から特にございませぬ。

(6) 公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、(6) 番「公民館関係報告事項」。

秦野副館長。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 公民館もございませぬ。

(7) 文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いてまいります。(7)「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 文化会館です。それでは2点ほどお願いいたします。

まず人形劇フェスタですけれども、残念ながら今年のフェスタは中止ということになりました。7月の終わりにかなりコロナの状況が悪くなりまして、当初、4月に計画をしておりましたコロナ対策に沿って警戒レベル4、それからレベル5になりましたので中止ということにさせていただいたということです。現在は、チケットの払い戻しを順次行っておるといふことであります。

それから、その他にもこれから文化会館の関係では、秋に向けていろんな事業もあるわけですけれども、一応、今、定員を半分にして実施するという方向で計画をしております。

それから2点目ではありますが、新しい文化会館の建設についてです。

6月から市民の方による検討の整備検討委員会を立ち上げております。お手元に飯田文化会館のニュースレターというものをお配りしました。ホームページにも情報を載せるんですけれども、こういった紙ベースのものを新しく作りまして、市民の皆さんに報告をしていきたいと思っております。この今の紙面につきましては、まだ最終ではないんですけど、ほぼ最終原稿ということでありまして、9月の組合回覧で回したいなと今、準備を進めておるところであります。

内容については、説明はいたしませんけれども、6月、それから7月と2回、整備検討委員会を開催いたしました。具体的な整備ということよりも飯田文化会館は、何をを目指す

かということで、基本理念を中心に話をしております。飯田の文化とは何か、それから飯田文化会館の果たす役割は何かということで皆さんとお話をして、いくつかのキーワードが今のこのページにですけれども、出てきております。

今後、基本理念、それからいろんな計画もどんどん、まずベースとなるものをつくっていくということでいきたいと思います。それから市民のワークショップもこれから始めていきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

文化会館は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、加えて申し上げますと人形劇フェスタ、管内のレベルっていうことだけじゃなくて、子どもたちが集まるということ、それから密閉の空間など、開催については非常に厳しい状況があるということでレベルと併せて検討した結果ということでですね。

良いですか、下井館長そういうことで。

◎文化会館館長（下井善彦） いいです。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（８）図書館関係報告事業

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（８）「図書館関係報告事項」。

瀧本館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いいたします。

資料が一番最後の 40 ページです。

2 件ご報告がありますけれども、資料がありますこちらのほうはよむとす事業の報告及び予定ということでお願いします。

報告の（１）のほうですけれども、こちらは分館で計画をして本を読むための取組を記載してございます。

（２）ですけれども、8 月 10 日にムトスぷらざで下伊那の高校の図書委員の交流会が行われておりまして、そのときにそれぞれ 7 つの学校 14 人の図書委員の皆さんがおススメ本のポップを作ってくださいました。それを今、駅前図書館の職員がいないときにも見ていただける木箱のところに設置をして展示をしております。多くの方にご覧いただければということで貸出しもできるようになっております。

それから、今後の予定の中の（２）ですけれども、南信州サイエンスクエスト、こちらが昨年度は行いませんでしたが、毎年行っております事業です。

図書館だけの事業ということではなくて、市内の公共施設や団体、こちらに記載してございますところが連携して、子どもたちが科学や自然への興味や関心を高めるために学びの場をつくろうということで、記載の8月27日の土曜日から9月の29日の間、それぞれの機関でそれぞれの体験の機会を設けております。

それから一番下に還元図書市と記載してございますけれども、こちらは図書館の除籍本ですとか、蔵書が十分にある郷土資料のストック本を市民の皆さんにお持ち帰りいただくというものです。9月2日から7日の間を予定していて、お一人10冊までということでお持ち帰りいただくようになっております。

それからもう1件のご報告ですけれども、別紙、パンフレットにあります第72回長野県図書館大会についてご案内を申し上げます。

開催要項もそれぞれの皆さんお配りいたしておりますけれども、県の図書館大会ですが、今年度は飯田会場ということで、大会テーマを「一人ひとりによりそう図書館になろう～読書の意味を再考し、図書館の役割やあり方を考える～」ということで、10月29日の土曜日に飯田文化会館をメイン会場に、コロナ対策が必要な時期でありますので、県内5つのサテライト会場を設置いたしまして開催いたします。

午前中は新井紀子さんの基調講演がございます。演題が「AI時代を生きるための力～読解力の重要性と読書の意義～」ということでお話をいただきます。

午後は分科会になっておりまして、第1分科会のほうは「読書と人をつなぐために」ということで読書や図書館に親しむために何ができるかということを考える分科会。

それから第2分科会のほうが「図書館が、知ること・学ぶことにどう応えられるか～ICTとベストミックスを図る図書館のあり方～」ということで分科会を行う予定になっております。

大勢の皆さんに参加していただけるように広報を始めたところでございます。

図書館からは以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（9）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

○美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） はい、よろしく申し上げます。

それではお配りしました「びはくにゅーす」をご覧いただきたいと思っております。

7月28日に感染症の警戒レベルが5になって以降ですけれども、プラネタリウムは人数を定員の3分の1、時間を40分に短縮して放映しております。また、各部門で予定していた講座につきましては、対象の参加者や内容、会場に合わせまして3密を避けて新たに参加人数を削減して設定しまして開催しております。9月も同様に続けていくということで9月のものにつきましては、人数を削減した定員数の設定で開催予定となっております。

9月23日から予定しております特別展の「城下町飯田と飯田藩」につきましては、チラシ、ポスターが来週の完成ということで本日お配りできません。次回また報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続けて、(10)「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、歴研ニュースの119号をご覧くださいと思います。

表紙でございます先月もチラシで報告しました地域史研究集会ですけれども、コロナ禍の感染状況が沈静しない場合につきましては、昨年に引き続きオンラインのみの開催になる予定でございます。今年度は、満州移民をテーマに開催しますので、関心も高く既に先着50名の会場参加者のほうは埋まってございます。

オンラインの参加は、今のところ31名の申込みいただいておりますが、昨年度、オンラインのみの開催になった場合に、ご家庭でパソコンや会議用ソフトがなかったり、ご高齢でパソコンの操作ができない方がいらっしゃるしまして、その方たちの対策をどうするかが課題になっておったわけですけれども、今年度につきましては講演や事例発表を視聴できるように、Zoomで配信します映像をプロジェクターでスクリーンに投影するサテライト会場というのを市役所の会場に設置しまして、対応する予定であります。

あとこれ以外のものにつきましては、今年度もワークショップ2件と8月以降の飯田アカデミアや歴史研究所のゼミナールの開催内容を掲載しておりますので、ご覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

それでは報告事項につきまして、質問ご意見がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは(11)今後の日程について。

櫻井課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） それでは資料の3ページをご覧ください。

11番、今後の日程についてでございます。

来月の定例会は、9月16日金曜日を予定しております。

9月26日の第3回飯田市校長会は、教育長と職務代理者のご出席でお願いします。

9月29日の学校訪問については、先ほどお手元に日程表をお配りいたしました。9月29日から11月10日までの間に、10日間の日程で計画しましたのでご予約をお願いします。

最後に小中学校の教育課程研究協議会でございます。例年は、教育委員の皆様にご会場に行っていただき、ごあいさつをしていただいていたところでございますが、こちらも昨年に引き続きコロナ禍のため関係者のみでの開催となりました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今後の日程について何かご質問ございますか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

本日予定されました議案等はこれで全てとなりますけれども、何かご発言等ございますか。よろしいでしょうか。

(「ありません」との声あり)

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第10、閉会。

以上をもちまして、8月の定例会を終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

閉会 午後4時17分